# 總持寺五院の成立と展開（五）

鶴見大学仏教文化研究所顧問　納冨　常天

## はじめに

『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第十四号（平成二十一年四月八日発行）において『普蔵院住番牒』二冊、『普蔵院輪住誌』一冊、第十六号（平成二十三年三月三十一日発行）において『妙高庵輪住誌』一冊、第十七号（平成二十四年三月三十一日発行）において『洞川庵住番記』『洞川庵輪住誌』各一冊、第十八号（平成二十五年三月三十一日発行）において『伝法庵輪住帳』『伝法庵輪住誌』各一冊を翻刻し、それらに対応する『總持寺住山記』を掲げ、その実情と問題点を考察した。ここではこれに引き続き『如意庵輪住帳』『如意庵輪住誌』各一冊を翻刻し、あわせてこれに対応する『總持寺住山記』を掲げ、その実情と問題点を考察する。

## （一）『如意庵輪住帳』『如意庵輪住誌』の翻刻とその問題点

如意庵は実峰良秀（一三一八～一四〇五）を開基とするが、その輪住帳は『如意庵輪住帳』『如意庵輪住誌』の二冊からなる。はじめの『如意庵輪住帳』一冊は、折本装の有罫で、縦三三・二糎、横一九・八糎であり、元和元年（一六一五）能登華溪寺呑虎和尚から、寛保元年（一七四一）筑前明光寺大庵万指和尚まで百二十七年にわたる住持記録である。表紙左に「如意庵輪住帳」とあり、右上に「直第卅六號」とある。巻首に、この『如意庵輪住帳』は実峰十二哲[1]の輪

番住職帳であるが、慶長十九年（一六一四）の火災で焼失したので、元和元年以来の前住職の覚である旨の序がある。なお巻頭の元和元年、能登華渓寺呑虎和尚から、延宝四年、若州竜沢寺音渓和尚まで一筆であることも無視できない。

次の『如意庵輪住誌』一冊は袋綴装の無罫で、縦三五・八糎、横二五・〇糎であり、元禄三年（一六九〇）肥前玉林寺石室和尚から、明治二年（一八六九）能登長安寺大安寛道（和尚）まで百八十年間の住持記録である。これにも前表紙中央に「傳法庵輪□□（住誌）」とある。また前表紙裏に「自元和元年　如意庵輪住誌巻二」とあり、その巻首に、如意庵開基実峰大和尚は、そのむかし二祖峨山禅師の命をうけ、またその門流が輪番住持してきた。その間然るべき人物がいなかった場合は、二十五哲のなかから助住し欠住することはなかった。しかし慶長十九年の火災により、堂宇とともに古記録すべてを焼失したので、誰れが膺受したか知ることができない。今ここに所載するのは元禄十二年（一六九九）から明和三年（一七六六）に至るものである。これより以降に住持の栄をうけるものは、歴代先哲の立派な行跡にならび、二祖の遺訓を失墜しないよう永久に記憶すべきである旨の序文がある。

両者は元禄三年（一六九〇）から寛保元年（一七四一）まで重複はしているが、これにより元和元年から明治二年まで欠落はなく、二百五十五年間の住持記録を知ることができる。

ここで『如意庵輪住帳』『如意庵輪住誌』[2]を翻刻し、従来の通りそれに対応する『總持寺住山記』を掲げ、その実情と問題点について考察する。また『如意庵輪住帳』および『如意庵輪住誌』の号・法名に大括弧［　］が付されたものは、『曹洞宗大本山總持寺御直末・元輪番地寺院名鑑』により補訂したものである。

なお『如意庵輪住帳』『如意庵輪住誌』の署名にある落款は朱・墨があるが、署名上にある場合は、当該の横に朱印は＊印、墨印は（▲）印、また署名の下や横にある朱印（□・○）は無印、墨印は（□▲・○▲）のように、落款の右横あるいは左横に（▲）印を付した。

## 如意庵輪住帳　33・2×19・8㎝

當庵開基實峯大和尚遷化以後
十二哲輪番住職帳慶長十九年
伽藍回祿之砌同焼失從元和
元乙卯暦以来前住職之覺

| | | |
|---|---|---|
| 元和元乙卯暦八月十二日入院 | 中明派 | （能州以下同じ）當國華溪寺呑虎和尚 |
| 元和二丙辰暦八月十二日入寺 | 中明派 | 當國瑞源寺［通山］全達和尚 |
| 元和三丁巳暦八月十二日入寺 | 同派 | 當國華溪寺呑虎和尚 |
| 元和四戊午（戊）暦八月十二日入寺 | 同派 | 當國瑞源寺［通山］全達和尚 |
| 元和五己未暦八月十二日入寺 | 同派 | 當國華溪寺呑虎和尚 |
| 元和六庚申暦八月十二日入寺 | 同派 | 當國瑞源寺［通山］全達和尚 |
| 元和七辛酉暦八月十二日入寺 | 金龍派 | 三州廣済寺永薫和尚 |

## 總持寺住山記

| | |
|---|---|
| 実峰派 二千九百八十二世呑虎和尚（寺名なし） | 受業（法名なし）尾州之 慶長十九甲寅年九月朔日 嗣法（法名なし）人事 |
| （該当なし） | |
| 実峰派 二千九百八十二世呑虎和尚（寺名なし） | 受業（法名なし）尾州之 慶長十九甲寅年九月朔日 嗣法（法名なし）人事 |
| （該当なし） | |
| 実峰派 二千九百八十二世呑虎和尚（寺名なし） | 受業（法名なし）尾州之 慶長十九甲寅年九月朔日 嗣法（法名なし）人事 |
| （該当なし） | |
| 實峰派 二千八百六十世永薫和尚（寺名なし） | 受業 永浮和尚 三州之 慶長十一丙午年初秋廿七日 嗣法 永浮和尚 人事 |

元和八壬戌暦
八月十二日入寺

明窓派　日州長善寺慶暾和尚

（該当なし）

元和九　亥暦
八月十二日入寺

大澤派　備中國永祥寺長梅和尚

実峰派
三千百五十二世長梅和尚
（寺名なし）
嗣法　全徹和尚　元和九（ママ）亥季
生国備中人事
受業　同和尚　正月七日

寛永元甲子暦
八月十二日入寺

妙叟派　尾州龍雲院［休外］玄祥和尚

（該当なし）

寛永貳乙丑暦
八月十二日入寺

中明派　當國悅叟寺昌曇和尚

（該当なし）

寛永三丙寅暦
八月十二日入寺

明窓派　日州長持寺祖達和尚

（該当なし）

寛永四丁卯暦
八月十二日入寺

金龍派　三州香積寺［台岩］栄天和尚

（該当なし）

寛永五戊辰暦
八月十二日入寺

中明派　當國瑞源寺［通山］全達和尚

（該当なし）

寛永六己巳暦
八月十二日入寺

同派　當國華溪寺呑虎和尚

実峰派
二千九百八十二世呑虎和尚
（寺名なし）
受業（法名なし）尾州之
慶長十九甲寅年九月朔日
嗣法（法名なし）人事

寛永七庚午暦
八月十二日入寺

明窓派　日州幻生寺舜隆和尚

（該当なし）

此間三年無住

寛永十一甲戌暦八月十二日入寺

中明派　當国瑞源寺［古山］盧龍和尚

（該当なし）

玄年無住

寛永十三丙子暦八月十二日入寺

綱庵派　伯州総泉寺［仁庵］永賢和尚

（該当なし）

丑寅卯辰
己午未申

此間八年無住

正保貳乙酉暦八月十二日入寺

大沢派　備中国永祥寺太春和尚

（該当なし）

正保三丙戌暦八月十二日入寺

明窓派　日州長持寺祖達和尚

（該当なし）

本正保四丁亥暦八月十二日入寺

妙叟派　尾州定光寺宗鉄和尚（三ツマハリ）（今ハ瑞光寺と申）　後

（該当なし）

慶安元戊子暦八月十二日入寺

天庵派　同州廣済寺［長国］儀養和尚（尾州）（尾州興禅開山萬山二代天菴和尚也天菴派者萬山派之事也）　前

賈峰派
四千貳百八世義養和尚（〈マヽ〉）
受業師　義愿和尚　寛永十二六月廿日
嗣法師　悟笑和尚　尾張國人事
廣済寺

慶安貳己丑暦八月十二日入寺

金龍派　三州廣済寺［渓岩］恵薫和尚

実峰派
五千一二百四十二世恵薫和尚
受戒師　暉堂和尚　三河之
慶安二己丑天六月十五日
嗣法師　玄祝和尚　住人也
廣済寺

慶安三庚寅暦八月十二日入寺

中明派　當國宝泉寺愚積和尚

（該当なし）

卯辰己午未此間五年無住

明暦元丙申暦八月十二日入寺　大等派　若州龍澤寺［徳翁］松積和尚

（該当なし）

明暦貳丁酉暦八月十二日入寺　金龍派　三州廣圓寺［斧外］全鈍和尚

（該当なし）

戊

此間壱年無住也

萬治二己亥暦八月十二日入寺　中明派　當國瑞源寺［雲嶺］半龍和尚

實峰派　五千四百廿七世雲嶺和尚　受業師　尊龍和尚　伯州之　慶安辛卯年四月四日　圓福寺　嗣法師　清雲和尚　住僧也

子丑寅

此間三年無住

寛文三癸卯暦八月十二日入寺　無着派　肥前國玉林寺［玉峰］閒的和尚

實峰派　四千七百四世閒的和尚　授号師（ママ）　因攀和尚　肥前住僧也　寛永廿癸未暦三月十六日　幸福寺　嗣法師　一庭和尚　推挙状有

寛文四甲辰暦八月十二日入寺　明窓派　日州長持寺祖龍和尚

（該当なし）

寛文五乙巳暦八月十二日入寺　中明派　當國東嶺寺［太安］鸞意和尚

（該当なし）

本寛文六丙午暦八月十二日入寺　萬山派　尾州興禅寺愚月［亀光］和尚

永平寺出世實峯派之取次　七千五百十八世亀光和尚　尾州之　寛文七丁未天七月廿六日　興禅寺　住僧也

寛文七丁未暦
八月十二日入寺

妙叟派　押紙「瑞光寺振住」同國龍雲院［了山］法達和尚

寛文八戊申暦
八月十二日入寺

金龍派　三州廣齊寺［天川］呑尭和尚

西戌貳年無住也

寛文十一辛亥暦
八月十二日入寺

綱庵派　伯州総泉寺［鉄門］良柱和尚

寛文十二壬子暦
八月十二日入寺

悅堂派　藝州聖光寺嫩逸和尚

丑寅卯貳三年無住也

延寶四丙辰暦
八月十二日入寺

大等派　若州龍澤寺［曹海］音溪和尚

（以上一筆）

丁巳壹年無住也

延寶六戊午天
八月十二日入寺

無着派　筑前明光寺積峯［善慶］和尚

延寶七辛未載
八月十二日入寺

悅堂派　雲州杵築神光寺廓道［湛然］和尚

---

實峰派永平寺出世
七千五百九十六世法達和尚
龍雲院
受戒師　伊源和尚　尾州之
寛文八戊申年七月廿日
嗣法師　守堅和尚　住僧也

（該当なし）

（該当なし）

実峯派
七千七十五世嫩逸和尚
聖光寺
受戒師　自峯和尚　藝州之
寛文四甲辰天四月十四日
嗣法師　同和尚　住僧也

（該当なし）

實峰派
八千八百八十八世積峯和尚
明光寺
受戒師　生雄和尚　筑前之
延宝五丁巳暦十月十三日
嗣法師　寂延和尚　住僧也

（該当なし）

申酉貳年無住也

天和二壬戌天八月十二日入院

中明派　當國瑞源寺［點山］庵（ママ）石和尚

實峰派
九千百十六世寅（ママ）石和尚
天桂寺

受業師　治叟和尚　加州之
延宝八庚申暦九月十五日
嗣法師　日宣和尚　住僧也

天和三癸亥天八月十二日入院

大沢派　備中永祥寺竿頭和尚

（該当なし）

貞享元甲子歳八月十五日

瑞雲寺巨天看主

貞享二乙丑歳八月十五日

青陽軒春長看主

貞享三丙寅歳八月十五烏

中明派　當國東嶺寺［天雄］自性和尚

實峰派
九千八百三世自性和尚
東嶺寺

受業師　天室和尚　能州ノ
貞享三丙寅暦八月十二日
嗣法師　孤感和尚　住僧也

貞享四丁卯秋八月十五（ママ）貝

無着派　豊後泉福寺無依［常知］和尚

實峰派
九千八百四世無依和尚
本護寺

受業師　貞巖和尚　豊後ノ
貞享三丙寅暦八月十二日
嗣法師　月関和尚　住僧也

從元禄元戊辰八月十五日入院
到元禄二己巳八月十五日退院

妙叟派　押紙［瑞光寺振住］
三州林泉寺鷲峰［秀鸞］和尚

實峰派
一万一百十三世鷲峰和尚
林泉寺

受業師　専海和尚　三州之
貞享五戊辰暦八月十日
嗣法師　世秀和尚　住僧也

從元禄二巳八月
到午八月迄

闕住　看主　永壽院　松澤
青陽軒　運長
瑞雲寺　巨天

（該当なし）

元禄三庚午八月十五日入院
同四年辛未八月十五日退院

無着派　肥州玉林寺［養牛］石室和尚

元禄四辛未八月十五日入院
同五壬申八月十五日退院

萬山派　尾州廣濟寺鍾峯［宗橘］和尚

元禄五壬申八月十五日入院
同六癸酉八月十五日退院

金龍派　三州香積寺壁立［圍鉄］和尚

元禄六癸酉八月十五日
進寺同七甲戌八月十五日退院

竹堂派　勢州建福寺天海和尚
（峩山廿五哲之一也）

元禄七甲戌暦
八月十二日入院

明窓派　日州長持寺嶺堂和尚

元禄八乙亥歳
八月十日入院

貝林派　當國龍護寺碩瑞［自徹］和尚

元禄九丙子暦八月十五日入院
同十丁丑八月十五日退院

中明派　能州千光寺慈秀［性善］和尚

元禄十丁丑暦八月十五日入院
同十一戊寅天八月十五日退院

無着派　羽州大慈寺州虎和尚

元禄十一戊寅年八月十五日入院
同十二己卯年八月十五日退院

大等派　若州龍澤寺興刹［俊隆］和尚

己卯此間壹年無住

瑞雲寺　永壽院　青陽軒　松沢　運長　壷天（ママ）

元禄十三辰八月十五日入院
同十四辛巳年八月十五日退院

妙叟派　三州長興寺了屋［薫哲］和尚

---

實峰派
一万六百十世鐘峰和尚
廣濟寺

受業師　萬岩和尚　尾張州之
元禄四辛未暦八月十二日
嗣法師　萬岩和尚　住僧也

實峰派
一万七百七十五世壁立和尚
香積寺

受業師　天瑞和尚　三州之
元禄五壬申暦八月十一日
嗣法師　秋月和尚　住僧也

（該当なし）

（該当なし）

（該当なし）

實峰派
一万一千四百一世慈秀和尚
千光寺

受業師　劍輪和尚　能州之
元禄九丙子暦八月十三日
嗣法師　鏡堂和尚　住僧也

實峰派
九千二百四十七世州虎和尚
大慈寺

受業師　春太和尚　羽州之
天和二壬戌暦七月廿四日
嗣法師　文的和尚　住僧也

實峰派
一万一千六百八十五世興刹和尚
龍澤寺

受業師　尊海和尚　若狭州之
元禄十一戊寅暦八月十一日嗣
法師　丹中和尚　住僧也

實峰派
一万一千九百九十六世了屋和尚
長興寺

受業師　實参和尚　三州之
元禄十三庚辰暦八月十二日
嗣法師　満奥和尚　住僧也

元禄十四辛巳載八月十五日入院
同十五壬午八月十五日退院

萬山派　尾州雲居寺大峰［玄統］和尚

青陽軒　運長
瑞雲監寺　文獅
永壽院　松沢

實峰派
一万二千二百卅三世大峰和尚
雲居寺

受業師　瑞峰和尚
元禄十四辛巳暦八月九日　羽州之
嗣法師　月堂和尚　住僧也

元禄十五午之歳闕住

元禄十六未之歳闕住

永壽院　松沢
青陽軒　運長
瑞雲監寺　文獅

寶永元申之年闕住

瑞雲監寺　文獅
永壽院　松沢
青陽軒　運長

寶永二酉之年闕住

青陽軒　運長
瑞雲寺　文子
永壽院　松沢

寶永二酉ノ八月入院
同三戌之八月退院

大澤派　備中永祥寺丹山和尚（花押）

（該当なし）

寶永四丁亥之歳闕住

青陽軒　運長
永壽院　松澤
瑞雲寺　文獅

寶永五戊子之歳闕住

永壽院　松澤
瑞雲寺　文獅
青陽軒　運長

寶永五子八月入院
同六丑八月退院

綱庵派　伯州総泉寺［大用］慧照和尚（花押）

実峰派
一万三千四百九十二世慧正和尚
物泉寺

受業師　大安和尚　伯州之
宝永五戊子年八月十四日
嗣法師　月澗和尚　住僧也

寶永六丑八月入院
同寅八月退院

中明派　能州瑞源寺匡山良堂和尚

（該当なし）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 從寶永七寅八月<br>正德元卯八月迄 | 青陽軒 運長<br>永壽院 澤恩<br>瑞雲寺 巴州 | 關住 | |
| 正德元卯八月入院<br>同辰八月退院 | | 悅堂派 | 雲州神光寺閭翁州悅禾（ママ）尚 |
| 正德二壬辰八月入院<br>同巳八月退院 | | 無着派 | 肥陽玉林寺大龍渭川和尚＊<br>（※署名上にある朱印の落款は当該の位置に＊印、墨印は（▲）印、以下同じ） |
| 正德三癸巳八月入院<br>同甲午秋八月退院 | | 無著派 | 筑前明光寺性山鐵相和尚＊ |
| 正德四甲午八月入院<br>同乙未秋八月退院 | | 金龍派 | 參州嶺雲寺禅鳳秀道和尚＊ |
| 正德五乙未八月入院<br>享保元丙申八月退院 | | 無着派 | 豊後州泉福寺鐵門祖柱＊和尚 |
| 享保元丙申八月入院<br>同丁酉秋八月退院 | | 明窓派 | 日向州長持寺康山芸與和尚＊ |
| 享保二丁酉八月入院<br>同戊（ママ）戊秋八月退院 | | 無着派 | 羽州曹溪寺全山印提和尚＊ |
| 享保三戊戊（ママ）八月入院<br>仝己亥秋八月退院 | | 中明派 | 本（能）州東嶺寺呑海木舟和尚＊ |
| 享保四己亥入院<br>同五庚子秋退席 | | 大等派 | 若州龍澤寺黠外愚中和尚＊ |

---

（該当なし）

實峰派
一万三千八百六十四世渭川和尚
玉林寺
受業師　石室和尚　肥前之
寶永七庚寅歳七月七日
嗣法師　石門和尚　住僧也

無着派
一万二千三百八十七世鐵相和尚
明光寺
受業師　寂延和尚　筑前□（之）
元禄九丙子暦五月十日
嗣法師　積峯和尚　住僧也

（該当なし）

無着派
一万二千三百十四世鐵門和尚
金剛寺
受業師　三外和尚　豊前州之
元禄十五壬午暦三月十二日
嗣法師　三外和尚　住僧也

實峰派
一万五千四百廿四世芸與和尚
長持寺
受業師　察元和尚　日州之
享保元丙申年八月十日
嗣法師　嶺堂和尚　住僧也

（該当なし）

（該当なし）

實峰派
一万八千六十三世愚中和尚
龍澤寺
受業師　了潭和尚　若州之
享保四己亥年八月十二日
嗣法師　損翁和尚　住僧也

享保五庚子入院
同癸(ママ)丑八月退院

無着派　羽州秋田大慈寺一峰楳純和尚(▲)

享保六辛丑入院
同七壬寅八月退院

妙叟派　尾州天徳院章山祖興和尚*（瑞光寺振住）

享保八癸卯退闕住

永壽院　澤恩
瑞雲寺　巴州

同九甲辰之秋退院（押紙）「萬山派　尾州　野田　龍潭寺［説乘］慈宜和尚　落申□（欠か）書加　興禅寺ゟ拂請状」

享保甲辰秋入院
同十乙巳八月退

（派名なし）［実峰派］（押紙）「當國龍護寺［心山］碩傳和尚（花押）」

享保十乙巳秋入院
同十一丙午八月退院

悅堂派　藝州聖光寺丈峯和尚（花押）

享保十一丙午秋入院
同十二丁未八月退院

（派名なし）［実峰派］備中平等寺瑞立和尚（永祥寺代）

享保十二丁未八月入院
同十三申ノ八月退院

（派名なし）［無著派］羽州安養寺月珊和尚

享保十三申ノ八月入院
同十四酉ノ八月退院

（派名なし）［中明派］能州千光寺秀田［慧芒］和尚

享保十四年八月ゟ
同十五年戌八月迄

闕住

永壽院　澤恩
青陽軒　禅桂
瑞雲寺　要門

---

實峰派
一万八千百十七世一峯和尚
大慈寺
受業師　推巖和尚（羽州之□□□）
享保五年庚子八月八日
嗣法師　文的和尚　住僧也

實峰派再公文
一万八千二百三十七世章山和尚
天徳院
受業師　雷峰和尚　尾州之
享保六辛丑年八月十一日
嗣法師　北睡和尚　住僧也

（該当なし）

實峰派
一万八千六百七十九世碩傳和尚
龍護寺
受業師　碩瑞和尚　能州之
享保九辰年六月朔日
嗣法師　默翁和尚　住僧也

實峰派
一万八千八百八十九世丈峰和尚
再公文聖光寺
受業師　嫩周和尚　藝州之
享保十乙巳年八月八日
嗣法師　嫩周和尚　住僧也

實峰派
一萬八千九百四十二世瑞立和尚
平等寺
受業師　高雲和尚　備中之
享保十一丙午年三月十日
嗣法師　圓隆和尚　住僧也

實峰派（ママ）
一万三千八百九十七世月珊和尚
廣谷寺
受業師　峯天和尚　羽州之
寶永七庚寅歳八月廿三日
嗣法師　芳淳和尚　住僧也

（該当なし）

享保十五年庚戌八月入院
同十六年辛亥八月退院

享保十六辛亥八月入院
同十七壬子八月退院

享保十七壬子八月入院
同十八癸丑八月退院

享保十八癸丑八月入院
同十九甲寅八月退院

享保十九甲寅八月ゟ
同二十乙卯八月迄

享保廿乙卯八月入院
元文元丙辰八月退院

元文元丙辰八月ゟ
同二年巳八月迄

同二年八月ゟ
同三年戊午八月迄

元文三戊午八月ゟ
同四己未八月迄

元文四己未八月ゟ
同五年庚申八月迄

勢州四日市
竹堂開山建福寺皇州和尚（花押）

肥前佐嘉郡
無著派　玉林寺大龍［渭川］和尚（花押）

本州穴水
中明派　瑞源寺獨耕和尚（花押）

伯州
綱庵派　總泉寺［繡室］寛補和尚

闕住監寺　瑞雲寺　要門
永壽院　澤恩
青陽軒　如□輪

雲州
悅堂派　神光寺［月峰］不白和尚（花押）

金龍派　三州香積寺［天海］恵屋和尚（花押）

明窓派　日州長持寺天倪和尚

無着派　羽州大慈寺月巖［𢖍堂］和尚

看主　青陽軒　如輪
瑞雲寺　要門
永壽院　沢恩

---

竺堂派
一万七千七百九十四世皇州和尚　再公文
建福寺
受業師　三州和尚　勢州之
享保十五庚戌年八月十一日
嗣法師　雄山和尚　住僧也

實峰派
一万三千八百六十四世渭川和尚
玉林寺
受業師　石室和尚　肥前之
寶永七庚寅歳七月七日
嗣法師　石門和尚　住僧也

實峰派
一萬八千七百四十六世獨耕和尚
禪翁寺
受業師　良堂和尚　能州之
享保九甲辰年八月十三日
嗣法師　天倫和尚　住僧也

實峰派
一万八千三百七世寛補和尚
再公文總泉寺
受業師　寛道和尚　伯州之
享保十八癸丑年八月六日
嗣法師　亮湛和尚　住僧也

實峰派
一万七千八百五十一世不白和尚
神光寺
受業師　閑翁和尚　雲州之
享保十六辛亥年三月十二日
嗣法師　閑翁和尚　住僧也

（該当なし）

實峯派
一万八千七百六十一世天倪和尚
寶延寺
受業師　寛龍和尚　日州之
享保廿乙卯年閏三月廿八日
嗣法師　康山和尚　住僧也

（該当なし）

元文五庚申八月ヨリ
寛保元辛酉八月マテ

看主

永壽院　澤恩
青陽軒　如輪
瑞雲寺　要門

寛保元辛酉八月ヨリ
同二壬戌八月マテ

無着派　筑前明光寺大庵万指和尚（花押）

---

（該当なし）

無著派
二万三百七十世大庵和尚
再公文明光寺

受業師　鐵相和尚　筑前之
寛保元辛酉年八月十一日
嗣法師　白龍和尚　住僧也

## 如意庵輪住誌 26・4×14・1㎝

如意庵輪住誌序
本庵開基大和尚在昔
受　二祖老古佛之面
命俾其兒孫輪環視篆
祖山焉若有乏其人則使
五々麟鳳之孫攀於補衮
之例以故歷於數十世莫
有虛其席矣而慶長十九
年罹于祝融之災自殿宇
及乎古書誌都作烏有是
故不可知所膺其選何人
斯今所載誌僅自元祿乙
卯至明和丙戌自今而後
使遷喬之人儀列于歷世
先哲之芳躅不墜於
二老古佛之遺訓則雖百
世可知也矣

元祿三午載
八月入院

無着派　肥前玉林寺［養生］石室和尚

元祿四未載
八月入院

萬山派　尾州廣濟寺鐘峯［宗橘］和尚

## 總持寺住山記

実峰派
一万六百十世鐘峰和尚
廣濟寺

受業師　萬岩和尚　尾張州之
元祿四辛未暦八月十二日
嗣法師　萬岩和尚　住僧也

元禄五壬申載八月入院　金竜派　三州香積寺壁立［圍鉄］和尚

元禄六癸酉載八月入院　竹堂派　勢州建福寺天海和尚

元禄七甲戌八月入院　明窓派　日州長持寺嶺堂和尚

元禄八乙亥八月入院　具林（ハイ貝）派　當國竜護寺碩瑞［自徹］和尚

元禄九丙子八月同十丑八月迮（ママ）以下同じ　中明派　本州千光寺（能州以下同じ）慈秀［性善］和尚

元禄十丑八月同十一寅八月迮　無着派　羽州大慈寺州虎（虎）和尚

元禄十一戊寅八月同十二己卯八月迮　大等派　若州竜沢寺興刹［俊隆］和尚

元禄十二　闕住　瑞雲寺　永寿院　青陽軒　竜天　松沢　運長

元禄十三辰八月同十四巳八月迮　妙叟派　三州長興寺了屋［薫哲］和尚

元禄十四巳八月同十五午八月迮　萬山派　尾州雲居寺大峰［玄統］和尚

これ以降寛保四年まで、『總持寺住山記』の記録は『如意庵輪住帳』参照。

元禄十五壬午年　中間四年闕住　永寿院　松沢　瑞雲寺　文獅　青陽軒　運長
宝永二迄

寶永二酉年八月　備中永祥寺丹山和尚
同三戌年八月迄

（貼付紙朱）
「元禄十五壬午年　八月ヨリ同十六年八月マテ
元禄十六癸未年　八月ヨリ宝永元年八月マテ　三回闕住也
寶永元甲申年　八月ヨリ同二年八月マテ　」

寶永四五二歳闕住　永寿院　松沢　瑞雲寺　文獅　青陽軒　運長

寶永五子年八月　綱庵派　伯州總泉寺［大用］慧照和尚
同丑年八月迄

寶永六丑年八月　中明派　能州瑞源寺匡山良堂（以下和尚なし）
同寅年八月迄

寶永七寅年八月　闕住　青陽軒　運長　永寿院　沢恩　瑞雲寺　巴州
正徳元卯年八月迄

正徳元卯年八月　悅堂派　雲州神光寺閭翁州悅
同辰年八月迄

正徳二壬辰八月　無着派　肥前玉林寺大竜渭川
同巳八月迮

正徳三癸巳八月　無着派　筑前明光寺萬空鐵相（性山を抹消し萬空としている）
同甲午八月迮

正徳四甲午八月　金龍派　参州嶺雲寺禪鳳秀道
同乙未八月迮

正徳五乙未八月　無着派　豊後泉福寺鐵門祖柱
享保元申八月迮

享保元丙申八月　明窓派　日向長持寺康山芸與
同二丁酉八月迮

享保二丁酉八月　無着派　羽州曹溪寺全山印提
同戊戌八月迮（ママ）

享保三戊戌（ママ）八月　中明派　本州東嶺寺呑海木舟
同四亥八月迮

享保四己亥八月　大等派　若州龍沢寺黠外愚中（今ワ向陽寺勤之）
同五庚子八月迮

享保五庚子八月　無着派　羽州秋田大慈寺一峰楳純（以上和尚なし）
同辛丑八月退ク

享保六辛丑八月ゟ　妙叟派　尾州天徳院章山祖興和尚
同七壬寅八月迮

享保七壬寅八月ゟ
同八癸卯八月迄

享保八癸卯八月ゟ
同九辰八月迄

享保九甲辰八月ゟ
同十乙巳八月迄

享保十乙巳八月ゟ
同十一丙午八月迄

享保十一丙午八月ゟ
同十二丁未八月迄

享保十二未八月ゟ
同十三申八月迄

享保十三申八月ゟ
同十四酉八月迄

享保十四酉八月ゟ
同十五戌八月迄

享保十五戌八月ゟ
同十六亥八月迄

享保十六亥八月ゟ
同十七壬子八月迄

闕住　永寿院　沢恩　瑞雲寺　巴州

萬山派　尾州龍潭寺［説乗］慈宜和尚

實峯派　當國龍護寺［心山］碩傳和尚

悅堂派　藝州聖光寺大峰和尚

（派名なし）備中平等寺（永祥寺代）瑞立和尚

無著開山羽州安養寺月珊和尚

（派名なし）本州千光寺秀田［慧苗］和尚

闕住　永寿院　沢恩　青陽軒　禅桂　瑞雲寺　要門

竹堂開山勢州建福寺皇州和尚

無著派　肥前玉林寺大龍［渭川］和尚

| | | |
|---|---|---|
| 享保十七壬子八月ゟ同十八癸丑八月迄 | 中明派 | 本州瑞源寺（穴水）獨耕和尚 |
| 享保十八癸丑八月ゟ同十九甲寅八月迄 | 綱庵派 | 伯州總泉寺［繍室］寛補和尚 |
| 享保十九甲寅八月ゟ同二十乙卯八月迄 | 闕住監寺 | 瑞雲寺 要門 永寿院 沢恩 青陽軒 如輪 |
| 享保廿乙卯八月ゟ元文元丙辰八月迄 | 悅堂派 | 神光寺（雲州）［月峰］不白和尚 |
| 元文元丙辰八月ゟ同二年巳八月迄 | 金龍派 | 三州香積寺［天海］恵屋和尚 |
| 從元文二巳八月到同三年戊午八月 | 明窻派 | 日州長持寺天倪和尚 |
| 從元文三戊午八月到同己未八月退院 | 無著派 | 羽州大慈寺月岩［麴堂］和尚 |
| 從元文四己未八月望到同五庚申八月退院 | 看主 | 青陽軒 如輪 瑞雲寺 要門 永寿院 沢恩 |
| 從元文五庚申八月望日到寛保元辛酉八月望日退院 | 看主 | 永寿院 沢恩 青陽軒 如輪 瑞雲寺 要門 |
| 從寛保元辛酉八月望日到同二壬戌八月望日退院 | 無著派 | 筑前明光寺大庵［萬指］和尚 |

（以上『如意庵輪住帳』と重複）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 從寛保二壬戌八月望日<br>到寛保三癸亥八月望日退院 | 實峰派 | 本州悅叟寺福州［實智］和尚 | （該当なし） |
| 實峯禪師開闢道場之処九代ヨリ天真ノ遠末ニ属シ林村度沢寺（廣）ニ属候處霊松隠居鐵州和尚永壽鉄道ト謀而歸末ス<br>是　秀祖ノ本分吾山ノ栄輝也此年始而帰末申渡輪住始テ勤ムニ二年一回ニ定置者也 | | | |
| 從寛保三癸亥八月望日<br>到延享元甲子八月退院 | 實峯開山 | 信州霊松寺［大輪］徹牛和尚 | （該当なし） |
| 從延享元甲子八月望日<br>到同二乙丑八月望日退院 | 妙叟派 | 尾州福田寺覺城［良固］和尚<br>日永瑞光寺振住也 | 實峰派<br>二万千二八十世覺城和尚<br>再公文福田寺<br>受業師　仙顔和尚　尾州之<br>延享五甲子年八月十二日<br>嗣法師　仙顔和尚　住僧也 |
| 從延享二乙丑八月望日<br>到同三丙寅八月望日退院 | 實峰派 | 本州龍護寺［月江］玉團和尚 | （該当なし） |
| 從延享三丙寅八月望日<br>到同四丁卯八月望日退院 | 萬山派 | 尾州興禪寺［麟定］碩瑞和尚<br>津嶌 | 實峰派再公文<br>二万千四百八十六世碩瑞和尚<br>興禪寺<br>受業師　如麟和尚　尾州之<br>延享三丙寅年八月九日<br>嗣法師　寢仙和尚　住僧也 |
| 從延享四丁卯八月望日<br>到寛延元戊辰八月望日退院 | 實峯開闢 | 備中州永祥寺規外和尚 | （該当なし） |
| 從寛延元戊辰八月望日<br>同二己巳八月望日退院 | 實峯派 | 若狭國向陽寺達宗［林禪］和尚<br>是迄龍沢寺ニ勤来候得共向陽寺依願龍沢寺之勤仕差除向陽ニ相成初而相勤者也 | （該当なし） |
| 從寛延二己巳八月望日<br>到同三庚午八月望日退院 | 實峯派 | 作州瑞景寺玄堂［通門］和尚住<br>備中定光寺ヘ嘱居候ヘ共従来　実峯禪師開山之地<br>延享三寅年本末一統御改之節拙院江府ニ罷成直末ニ改今年初輪住する者也三十年一回也 | 實峰派再公文<br>二万二千八十六世玄堂和尚<br>瑞景寺<br>受業師　白善和尚　作州之<br>寛延二己巳年八月九日<br>嗣法師　活山和尚　住僧也 |
| 從寛延三庚午八月望日<br>到同四辛未八月望日退院 | 無着派 | 羽州山形安養寺［円山］嶽明和尚 | （該当なし） |

從寛延四辛未八月望日
到宝暦二壬申八月望日退院　悦堂派　藝州聖光寺天宗和尚

從寶暦二壬申八月望日
到同三甲戌八月望日退院　無着開山　肥前佐嘉玉林寺得宗［逸髓］和尚

從寶暦三癸酉八月望日
到同四甲戌八月望日退院　通幻派　信州正安寺大梅［法璵］和尚（補住也）

從寶暦四甲戌八月望日
到同五乙亥八月望日退院　通幻派　加州雲龍寺蔵鱗（補住也）（和尚なきものあり）

從寶暦五乙亥八月望日
到同六丙子八月望日退院　中明派　本州瑞源寺［文嶺］玖鳳和尚

從寶暦六丙子八月望日
到同七丁丑望日退院　金龍派　三州円通院（千鳥寺代住）［華岳］蔵印

從寶暦七丁丑八月十五日
到同八戊寅八月望日　實峯開山　伯州米子總泉寺［一峰］定麟和尚

從寶暦八戊寅八月望日
到同九己卯八月望日　實峯派　能州千光寺［桂田］祖苗和尚

（貼付紙）
千光寺江安永九庚子年八月内狀差
遣候処同九月千光寺直登之上前々之
年限早ヶ様ニ奉存候間前々之年限被為
仰付被下候様ニ被相願候故其通リ聞濟申渡ス
依而来ル戊申八月ゟ上山之趣ニ候間
末ノ八月請疏可遣事

---

實峰派
二萬千九百七十三世天宗和尚（聖光寺）
受業師　丈峰和尚　藝州之
寛延二己巳年三月十三日
嗣法師　丈峰和尚　住僧也

實峯派
一万七千七百六十八世逸髓和尚（光圓寺）
受業師　大統和尚　肥前之
享保十五庚戌年五月十日
嗣法師　天室和尚　住僧也

（該当なし）

（該当なし）

實峰派
二萬二千六百四十世玖鳳和尚（瑞源寺）
受業師　散倫和尚　能州之
寶暦二壬申年七月五日
嗣法師　覃山和尚　住僧也

實峰派再公文
二万三千五百三世蔵印和尚（圓通院）
受業師　癡絶和尚　三州之
寶暦六丙子年八月七日
嗣法師　默仙和尚　住僧也

實峰派
一萬九千四十三世定麟和尚（観音寺）
受業師　定山和尚　伯州之
享保廿一丙辰年四月十五日
嗣法師　梅堂和尚　住僧也

實峰派
二万五百九十九世祖苗和尚（千光寺）
受業師　祖英和尚　能州之
寛保三癸亥年二月廿七日
嗣法師　恵苗和尚　住僧也

從寶暦九己卯八月望日
到同十庚辰八月望日

實峯派　日州長持寺逆水和尚

從寶暦十庚辰八月十五日
到同十一辛巳八月望日退院

無着開山　肥州唐津醫王寺提宗［眞綱］

從寶暦十一辛巳八月望日
到同十二壬午八月望日

補住也
太源派　摂州大坂天滿天徳寺［聯山］隆芳

寶暦十二壬午八月望日
到同十三癸未八月望日

竹堂開山　勢州四日市建福寺種山［了苗］

從明和元甲申歳
八月十五日退院

無着派　羽州仙北大慈寺東林［寂照］

從明和元甲申八月十五日
到同二乙酉八月十五日

補住也
法王派　越後長興寺忍亮（花押）
但此寺向後三十年目ニ一回ツヽ被相勤候ニ定也（ママ）

從明和二乙酉八月十五日
到同三丙戌八月十五日

實峰開闢　信劦靈松寺實践默性□
（※署名の下や横にある朱印の落款は無印、墨印は□あるいは▲（▲）にした。）

從明和三丙戌八月十五日
到同暦四乙亥八月十五日

悅堂開闢　雲州神光寺金龍林鳳□

從明和四乙亥八月十五日
到同五年戊子八月十五日

無著派　筑前明光寺大鎮良珪□

從明和五年戊子八月十五日
到同六年己丑八月十五日

補住也
通幻派　勢州養泉寺孝存梅友□

---

實峰派
一萬百五十世逆水和尚
瑞雲寺
受業師　豊山和尚　日州之
元文五庚申年十月廿五日
嗣法師　良晉和尚　住僧也

（該当なし）

無着派
一萬九百六十四世提宗和尚
醫王寺
受業師　靠山和尚　肥前之
延享元甲子年三月廿四日
嗣法師　靠山和尚　住僧也

（該当なし）

（該当なし）

（該当なし）

（該当なし）

（該当なし）

實峰派
一萬三千六百六十一世林鳳和尚
妙相寺
受業師　不白和尚　雲州之
寶暦七丁丑年三月廿六日
嗣法師　忍清和尚　住僧也

無着派
一万五千九百六十四世大鎮和尚
再公文　明光寺
受業師　大庵和尚　筑前之
明和四丁亥年八月十一日
嗣法師　大庵和尚　住僧也

通幻派
一萬八百八十三世梅友和尚
崇恩寺
受業師　丹崖和尚　勢州之
延享元甲子年三月四日
嗣法師　淵苗和尚　住僧也

| | | |
|---|---|---|
| 從明和六己丑八月十五日<br>到同暦七庚寅八月十五日 | 實峯開闢 | 備中永祥寺大麟道趾□ |
| 從明和七庚寅八月十五日<br>到同暦八辛卯八月十五日 | 實峯派 | 本州東嶺寺雷音喝宗□（直請状） |
| 從明和八辛卯八月十五日<br>到同暦九壬辰八月十五日 | 實峯派 | 若州向陽寺慧観眼明□（直請状） |
| 從明和九壬辰年八月十五日入院<br>到安永二癸巳年八月十五日退院 | 無著開闢 | 肥前州玉林寺笑岩聯芳□（直請状） |
| 從安永二癸巳年八月十五日<br>到安永三甲午年八月十五日 | 明峯派 | 越中海岸寺金毛白獅□（補住也） |
| 從安永三甲午年八月十五日<br>到安永四乙未歳八月十五日 | 實峯派 | 伯州米子總泉寺［牧翁］灌谿（花押）（直請状） |
| 從安永四乙未年八月十五日<br>到安永五丙申歳八月十五日 | 妙叟派 | 勢州源盛院［一山］泰存□（尾州日永瑞光寺振住也） |
| 到安永六丁酉八月十五日退［マヽ］ | 金龍派 | 三州足助香積寺慧民（直請状）<br>代住最光院慧斤（〇）（▲） |
| 到安永七戊戌八月十五日退 | 萬山派 | 尾州廣濟寺［越山］元壽□ |
| 到安永八己亥八月十五日退 | 悅堂派 | 藝州聖光寺本光□ |

---

實峰派
二万六千三百六十二世大麟和尚　受業師　獨橋和尚　備中之
再公文　永祥寺　明和六己丑年八月九日　嗣法師　良悟和尚　住僧也

（該当なし）

實峰派
二万六千四百七十世眼明和尚　受業師　忍良和尚　若州之
向陽寺　明和七庚寅年四月八日　嗣法師　忍良和尚　住僧也

（該当なし）

（該当なし）

（該当なし）

（該当なし）

實峰派
二万七千六百九十七世慧斤和尚　受業師　雪獅和尚　三州之
再公文　最光院　安永五丙申年八月八日　嗣法師　雪獅和尚　住僧也

（該当なし）

實峰派
二万七千八百九十一世元壽和尚　受業師　魯堂和尚　尾州之
再公文廣濟寺　安永六丁酉年八月九日　嗣法師　魯堂和尚　住僧也

（該当なし）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 從安永八己亥八月<br>到同庚子八月 | 無著開闢 | 羽州村山郡安養寺［大峰］祖令* | |
| 從安永九庚子八月望日<br>到天明元辛丑八月望日 | 太源派 | 信州桑原龍洞院梅峯*［雄松］ | |
| 從天明元辛丑八月十五日<br>到天明二寅八月望日 | 實峰派 | 本州瑞源寺單宗*［別傳］ | |
| 從天明二壬寅八月十五日<br>到天明三癸卯八月望日 | 實峯派 | 日州長持寺默禪* | |
| 從天明三癸卯八月望日<br>到天明四甲辰八月望日 | 無着派 | 羽州大慈寺［大扇］智鏡□ | |
| 從天明四甲辰八月望日<br>至天明五乙巳八月望日 | 通幻派 | 信州上野明松寺［棟翁］金梁□ | |
| 從天明五乙巳八月望日<br>到天明六丙午八月望日 | 實峯派 | 信州靈松寺徹道□ | |
| 從天明六丙午八月望日<br>到天明七丁未八月望日 | 實峯派 | 本州千光寺兀道［仙芳］（花押） | |
| 從天明七丁未八月望日<br>到天明八戊申八月望日 | 實峯派 | 本州龍護寺［洞禪］宣明（花押） | |
| 從天明八戊申八月望日<br>到寛政元己酉八月望日 | 通幻派 | 加州廣誓寺［覚厳］玄了□ | |

---

| | | | |
|---|---|---|---|
| 實峯派<br>二萬四千六百五十一世祖令和尚<br>慈光寺 | 受業師 大貫和尚 羽州之<br>寶暦十二壬午年二月二十三日<br>嗣法師 大貫和尚 住僧也 | | |
| 太源派<br>二万八千四百十三世梅峰和尚<br>再公文龍洞院 | 受業師 泰峰和尚 信州之<br>安永九庚子年八月十日<br>嗣法師 泰峰和尚 住僧也 | | |
| 實峰派<br>二万七千六十九世單宗和尚（以下なし）<br>瑞源寺 | | | |
| 實峰派<br>二万七千六百四十四世智鏡和尚<br>大慈寺 | 受業師 東林和尚 羽州之<br>安永五丙申年四月十七日<br>嗣法師 東林和尚 住僧也 | | |
| 通幻派<br>二万八千九百七十七世金梁和尚<br>再公文 明松寺 | 受業師 越有和尚 信州之<br>天明四甲辰年八月八日<br>嗣法師 越有和尚 住僧也 | | |
| 實峰派<br>二万九千百三十七世徹道和尚<br>再公文 霊松寺 | 受業師 昇龍和尚 信州之<br>天明乙巳年八月九日<br>嗣法師 太屋和尚 住僧也 | | |
| （該当なし） | | | |
| 實峰派<br>二万七千七百十四世宣明和尚<br>龍護寺 | 受業師 玉團和尚 能州之<br>安永五丙申年八月十二日<br>嗣法師 玉團和尚 住僧也 | | |
| 通幻派<br>二万七千二百廿七世玄了和尚<br>廣誓寺 | 受業師 鐵巖和尚 加州之<br>安永三甲午年五月廿二日<br>嗣法師 鐵巖和尚 住僧也 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 從寛政元己酉八月望日<br>到寛政二庚戌八月望日 | 實峰派 | 備中永祥寺良温□ |
| 從寛政二庚戌八月望<br>至寛政三辛亥八月望 | 實峰派 | 伯州總泉寺［天山］公圓□ |
| 從寛政三辛亥八月望<br>至寛政四壬子八月望 | 實峰派 | 若州向陽寺［慧観］眼明□ |
| 從寛政四壬子八月望<br>至寛政五癸丑八月望 | 實峰派 | 本州東嶺寺物外代揚宜□［實道］（花押） |
| 從寛政五癸丑八月望日<br>到寛政六甲寅八月望日 | 竹堂派 | 勢州建福寺［悟峰］擔道□ |
| 從寛政六甲寅八月望日<br>到寛政七乙卯八月望日 | 實峰派 | 雲州神光寺［雪山］巨海（花押） |
| 從寛政七乙卯八月望日<br>到寛政八丙辰八月望日 | 妙叟開闢 | 尾州瑞光寺白道陽山□ |
| 從寛政八丙辰八月望日<br>到寛政九乙巳（了）八月望日 | 萬山派 | 尾州雲居寺南嶺大壽（印刻花押） |
| 從寛政九乙巳（了）八月望日<br>到寛政十戊午八月望日 | 金龍派 | 三州千鳥寺僧海潛龍□ |
| 從寛政十戊午八月望日<br>到寛政十一己未八月望日 | 無着派 | 直請狀<br>肥前玉林寺體圓宜辨□ |

---

（該当なし）

實峰派
三万二百四十四世公圓和尚
再公文總泉寺

受業師　天柱和尚　伯州之
寛政二庚戌年八月十日
嗣法師　當午和尚　住僧也

實峰派
二万六千四百七十世眼明和尚
向陽寺

受業師　忍良和尚　若州之
明和七庚寅年四月八日
嗣法師　忍良和尚　住僧也

（該当なし）

實峰派
二万七千六百三十三世擔道和尚
建福寺

受業師　珉洲和尚　伊勢之
安永五丙申年四月十日
嗣法師　種山和尚　住僧也

實峰派
二万七千七百三十二世巨海和尚
妙相寺

受業師　不白和尚　雲州之
安永五丙申年九月三日
嗣法師　金龍和尚　住僧也

實峰派
三万二千三百五十一世白道和尚
再公文瑞光寺

受業師　道須和尚　尾州之
寛政七乙卯年八月日
嗣法師　當午和尚　住僧也

實峰派再公文
三万二千七百一世大壽和尚
雲居寺

受業師　義玄和尚　尾州之
寛政八丙辰年八月八日
嗣法師　宗端和尚　住僧也

實峰派
三万二千九百五世潛龍和尚
再公文　千鳥寺

受業師　全潮和尚　三州之
寛政九丁未年八月七日
嗣法師　俊嶺和尚　住僧也

實峰派
二万七千八百二十五世宜辨和尚
壽福院

受業師　恭拎和尚　肥前之
安永六丁酉年四月九日
嗣法師　萬仞和尚　住僧也

| | | | |
|---|---|---|---|
| 從寛政十一己未八月望日 到寛政十二庚申八月望日 | 無著派 | 筑前明光寺大江良欽□ | 無著派 三万三千三百十世大江和尚 受業師 大鎮和尚 筑前之 寛政十二己未年八月廿一日 再公文明光寺 嗣法師 大謙和尚 住僧也 |
| 從寛政十二庚申八月望日 到享和元辛酉八月望日 | 無著開闢 | 羽州安養寺大賢祖融□ | 無着派 二万八千二百七十一世大賢和尚 受業師 祖令和尚 羽州之 安永八亥己年八月廿三日 見瀧寺 嗣法師 祖令和尚 住僧也 |
| 從享和元辛酉八月望日 到享和二壬戌八月望日 | 明峯開闢 | 越中氷見光禅寺寂如湛堂（花押） | 明峯派 三万三千七百七十世湛堂和尚 受業師 龍堂和尚 越中之 享和元辛酉歳八月十九日 再公文光禅寺 嗣法師 不遷和尚 住僧也 |
| 從享和二壬戌八月望日 到享和三癸亥八月望日 | 明峰派 | 金澤崇禅寺［月彰］活牛□（▲） | 明峯派 三万三千三百拾世活牛和尚 受業師 鉞之和尚 加州之 寛政五癸丑年三月十九日 崇禅寺 嗣法師 謙之和尚 住僧也 |
| 從享和三癸亥八月望日 到文化元甲子八月望日 | 大徹派 | 山内覺皇院惟宗□ | （該当なし） |
| 從文化元甲子八月望日 到文化二乙丑八月望日 | 實峰派 | 伯州總泉寺［太中］素極□ | （該当なし） |
| 從文化二乙丑八月望日 到文化三丙寅八月望日 | 無着派 | 羽州秋田大慈寺徳恵［大官］□ | （該当なし） |
| 從文化三丙寅八月望日 到文化四丁卯八月望日 | 實峯派 | 本州穴水瑞源寺天如［實門］□ | （該当なし） |
| 從文化四丁卯八月望日 到文化五戊辰八月望日 | 實峰派 | 信州靈松寺［大提］良雲□ | 實峰派 三万三千二百六十九百九十一世良雲和尚 受業師 徹道和尚 尾州之 享和元辛酉年五月一日 久岑寺 嗣法師 徹道和尚 僧僧也 |
| 從文化五戊辰八月望日 到文化六己巳八月望日 | 實峰派 | 備中永祥寺良温□ | （該当なし） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 到文化七庚午八月望日 | 従文化六己巳八月望日 | 寒巖派（補住） | 越後長興寺悦成□ |
| 到文化八辛未八月望日 | 従文化七庚午八月望日 | 太源派 | 佐州大蓮寺［佛國］千乘□ |
| 到文化九壬申年八月望日 | 従文化八辛未年八月望日 | 實峰派 | 作州瑞景寺［峰山］宗高□ |
| 到文化十癸酉年八月望日 | 到文化九壬申年八月望日 | 實峰派 | 若州向陽寺［道規］宜範□（ママ） |
| 到文化十一甲戌年八月望日 | 従文化十癸酉年八月望日 | 實峰派 | 日向州長持寺默宗○（▲） |
| 到文化十二亥年八月望日 | 従文化十一戌年八月望日 | 實峰派 | 本州千光寺［雪應］良芳□ |
| 到文化十三子年八月望日 | 従文化十二亥年八月望日 | 實峰派 | 三州大濱林泉寺（尾州日永瑞光寺振住）［大棟］梁心□ |
| 到文化十四丁丑年八月望日 | 従文化十三子年八月望日 | 實峰派 | 本州東嶺寺雲外［把住］□ |
| 到文政元戊寅八月望日 | 従文化十四丁丑年八月望日 | 實峰派 | 三州廣濟寺壽參（開基寄傳）［春長］□（▲） |
| 到文政二卯八月望日 | 従文政元寅八月望日 | 無着派 | 肥前玉林寺［桃圓］知見○（▲） |

---

| | | |
|---|---|---|
| 再公文 實峰派 三万五千七百六十一世悦成和尚（長興寺） | 受業師 罪提和尚 越後之<br>文化己巳年八月二日<br>嗣法師 退翁和尚 住僧也 | |
| 太源派 二万八千八百八十四世千乘和尚（高德院） | 受業師 一乘和尚 佐渡州<br>天明三癸卯年五月十九日<br>嗣法師 一乘和尚 住僧也 | |
| 實峰派 三万六千百五十五世宗高和尚（再公文瑞景寺） | 受業師 絶宗和尚 作州之<br>文化八辛未年八月九日<br>嗣法師 鳥道和尚 住僧也 | |
| 實峰派 三万六千三百五十一世宜範和尚（再公文向陽寺） | 受業師 天澤和尚 若州之<br>文化九壬申年八月六日<br>嗣法師 天澤和尚 住僧也 | |
| 實峰派 三万三千九百四十九世默宗和尚（西光寺） | 受業師 物外和尚 日州之<br>享和二壬戌歳七月廿四日<br>嗣法師 秀山和尚 住僧也 | |
| 實峰派 三万四千六百四十四世良芳和尚（千光寺） | 受業師 仙芳和尚（能） 本州之<br>文化二乙丑年二月十三日<br>嗣法師 巨善和尚 住僧也 | |
| （該当なし） | | |
| （該当なし） | | |
| （該当なし） | | |
| （該当なし） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 從文政二卯八月ヨリ到文政三辰八月迄 | 萬山派 | 尾州興禪寺海籌□ | ［仙岩］ |
| 從文政三辰八月到文政四巳八月 | 竺堂派 | 勢州建福寺 | ［瞻杖］ 匡宗□ |
| 從文政四巳八月到文政五午八月 | 實峰派 | 雲州神光寺 | ［圓山］ 祥鳳□ |
| 從文政五午八月到文政六未八月 | 無着派 | 羽州山形安穀（養）寺 | ［桃溪］ 泰春□ |
| 從文政六未八月到文政七申八月 | 實峰派 | 本州龍護寺百中 | ［的箭］ □ |
| 從文政七申八月十五日到文政八酉八月十五日 | 實峰派 | 伯州米子総泉寺 | ［天南］ 靈苗□ |
| 從文政八酉八月十五日到同暦九戌八月十五日 | 實峰派 | 本州瑞源寺 | ［道安］ 佛宗□ |
| 從文政九戌八月十五日到同暦亥八月十五日 | 無着派 | 羽州秋田大慈寺 | ［天壽］ 功運□ |
| 從文政十亥八月到同暦子八月 | 實峯開闢 | 信州靈松寺 | ［義山］ 實雄□ |
| 從文政十一子八月到同暦丑八月 | 天眞派 | 越中常泉寺（備中永祥寺代住） | 道琳（花押）代津梁□ |

---

| | | | |
|---|---|---|---|
| 實峰派 三万七千七百六十六世海籌和尚 | 受業師 孝嵒和尚 尾州之 | 文政二己卯年八月八日 | 嗣法師 孝嵒和尚 住僧也 |
| 再公文 興禪寺 | | | |
| 實峰派 三万六千六百五十二世匡宗和尚 | 受業師 擔道和尚 同州之（勢） | 文化七一甲戌年三月一十三日 | 嗣法師 擔道和尚 住僧也 |
| 正法寺 | | | |
| （該当なし） | | | |
| 無着派 三万六千六十二世泰春和尚 | 受業師 道素和尚 同州之（羽） | 文化八辛未年三月廿八日 | 嗣法師 道宗和尚 住僧也 |
| 廣谷寺 | | | |
| 實峰派 三万七千九百六十七世百中和尚 | 受業師 俊鳳和尚 本州之（能） | 文政三庚辰年八月十五日 | 嗣法師 全龍和尚 住僧也 |
| 龍護寺 | | | |
| 再公文 實峰派 三万九千七世霊苗和尚 | 受業師 郁宗和尚 伯州之 | 文政七甲申年八月八日 | 嗣法師 郁宗和尚 住僧也 |
| 総泉寺 | | | |
| 實峰派 三万七千六百四十世佛宗和尚 | 受業師 單宗和尚 本州之（能） | 文政二己卯年三月二十日 | 嗣法師 天如和尚 住僧也 |
| 全翁寺 | | | |
| 無著派 三万七千三百五十一世功運和尚 | 受業師 大貫和尚 同州之（奥） | 文化十四丁丑年九月十一日 | 嗣法師 大貫和尚 住僧也 |
| 大慈寺 | | | |
| （該当なし） | | | |
| （該当なし） | | | |

| | | |
|---|---|---|
| 從文政十二丑八月到同暦寅八月 | 實峯派 | ［藝州］聖光寺孝岳［義仙］□ |
| 從天保元寅八月到同暦卯八月 | 太源派 | 奥州岩城補住龍門寺俊龍□ |
| 從天保二卯八月到天保三辰八月 | 通幻派 | 本州輪嶋蓮江寺（筑前明光寺代住）観亮□ |
| 從天保三辰八月同暦四巳八月 | 實峯派 | 日向州長持寺文啓□ |
| 從天保四巳八月同暦五午八月 | 實峯派 | 若州向陽寺［圭巖］梅雲○（▲） |
| 從天保五午八月同天保六未八月 | 實峯派 | 三州長興寺［萬山］（直請状）天年（花押）［退謙］（直請状）来道□（▲） |
| 從天保六未八月到同暦申八月 | 無着派 | 肥前醫王寺（直請状）［吳山］惟喬＊ |
| 從天保七申八月望至同八年酉八月望 | 中明派 | 本州東嶺寺道林［仁鳳］（花押）□ |
| 從天保八酉八月望到同暦戌八月望 | 金龍派 | 三州千鳥寺［大圓］白俊□ |
| 從天保九戌八月望到同暦亥八月望 | 實峯派 | 尾州龍潭寺［英芳］逸雄（ママ）□ |

---

| | | |
|---|---|---|
| 再公文 | 實峯派 | 四万七十世孝岳和尚　聖光寺　受業師　孝道和尚　芸州之　文政十二己丑年八月八日　嗣法師　黙仙和尚　住僧也 |
| 再公文 | 太源派 | 四万三百五世俊龍和尚　龍門寺　受業師　霊俊和尚　奥州之　文政十三寅年八月七日　嗣法師　霊俊和尚　住僧也 |
| | | （該当なし） |
| 文公再 | 實峯派 | 四万七百七十九世文啓和尚　長持寺　受業師　秀山和尚　日州之　天保三辰年八月五日　嗣法師　秀山和尚　住僧也 |
| 文公再 | 實峯派 | 四万九百五十五世梅雲和尚　向陽寺　受業師　洞谷和尚　若州之　天保四巳年八月十一日　嗣法師　雄麟和尚　住僧也 |
| 文公再 | 実峯派 | 四万千七十一世天年和尚　長興寺　受業師　寶圓和尚　三州ノ　天保五年八月九日　嗣法師　同和尚　住僧也 |
| 文公再 | 實峯派 | 四万千三百四十世惟喬和尚　醫王寺　受業師　密源和尚　肥州之　天保六年八月六日　嗣法師　同和尚　住僧也 |
| | | （該当なし） |
| 文公再 | 實峯派 | 四万千五百五十世白俊和尚　千鳥寺　受業師　白雄和尚　三州之　天保八年（ママ）酉八月八日　嗣法師　同　住僧也 |
| 文公再 | 實峯派 | 四万千七百四十七世活雄和尚　龍潭寺　受業師　國雄和尚　尾州之　天保九年八月四日　嗣法師　黙宗和尚　住僧也 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 従天保十亥八月望 到同暦子八月望 | 無著派 | 肥前玉林寺［曇華］良瑞□ | |
| 従天保十一子八月望 到同暦丑八月望 | 寒巖派 | 越後長興寺［泰道］泉明□ | |
| 従天保十二丑八月望 到同暦寅八月望 | 實峰派 | ［伯州］伯州總泉寺代 梅翁寺［太愚］圓流〇（青印） | |
| 従天保十三寅八月望 到同暦卯八月望 | 實峯派 | 本州千光寺直請状［佛天］良諦（花押） | |
| 従天保十四癸卯八月 到同甲辰八月望 | 太源派 | ［羽州］羽州安養寺代 清源寺［宜道］亮関□ | |
| 従天保十五甲辰八月 到弘化二乙巳八月 | 實峰派 | 作州瑞景寺直請状［義山］大勇□* | |
| 従同暦巳八月十五日 到同三午八月十五日 | 實峰派 | 本劦瑞源寺［大齢］實明* | |
| 従同暦午八月十五日 到同丁未八月十五日 | 實峯派 | 信州靈松寺［義山］實雄依迁寂 補住［恵巖］覚雄□（▲） | |
| 従弘化四未八月十五日 到嘉永元戊申八月十五日 | 無着 實峯派 | 羽州秋田大慈寺［祖峰］孝順□（▲）。。（抹消の印） | |
| 従嘉永元戊申八月十五日 到同暦二己酉八月十五日 | 實峯派 | 備中永祥寺汝楫□ | |

---

（該当なし）

實峰派 四万三百十六世泰道和尚 長興寺 受業師 悟峯和尚 勢州之 文政十三寅年八月十五日 嗣法師 匡宗和尚 住僧也

實峰派 三万九千四百五十四世圓流和尚 梅翁寺 受業師 見成和尚 伯州之 文政九戌年八月十五日 嗣法師 見成和尚 住僧也

實峰派 四万百八十世良諦和尚 千光寺 受業師 良芳和尚 能州之 文政十三甲寅年三月十四日 嗣法師 良芳和尚 住僧也

（該当なし）

實峰派 四万千六百九十三世大勇和尚 瑞景寺 受業師 大光和尚 作州之 天保九年四月十三日 嗣法師 同 住僧也

實峰派 四万千三百八十九世實明和尚 全翁寺 受業師 天如和尚 本州之 天保七年二月五日 嗣法師 佛宗和尚 住僧也

（該当なし）

再文公 無着派 四万三千八百十五世孝順和尚 大慈寺 受業師 雲峯和尚 羽州之 弘化四年八月八日 嗣法師 太貫和尚 住僧也

再文公 實峰派 四万四千四十八世汝楫和尚 永祥寺 受業師 義哲和尚 備中之 嘉永元年八月六日 嗣法師 良源和尚 住僧也

| | | |
|---|---|---|
| 從同暦二酉八月望日 到同暦三戌八月十五日 | 實峯派 | 雲州神光寺［靈潭］堅光□ |
| 從同暦三戌八月十五日 到同暦四亥八月十五日 | 竺堂派 | 勢州建福寺禪應＊［泰宗］ |
| 從嘉永四亥八月 到同暦五子八月十五日 | 實峯派 | 本州龍護寺［乾充］泰元□▲ |
| 從嘉永五子八月 到同暦六丑八月十五日 | 實峯派 | 日向州長持寺黄隆□ |
| 從嘉永六癸丑八月 到同暦七甲寅八月十五日 | 實峯派 | 若州向陽寺［廓峰］大然〇 |
| 從安政元甲寅八月 到同暦二乙卯八月十五日 | 實峯派 | 藝州聖光寺［嶽翁］哲元□ |
| 從安政二寅八月 到同暦三辰八月十五日 | 無著派 | 肥前醫王寺［蜜宗］桃源□ |
| 從安政三辰八月 到同暦四巳八月十五日 | 實峯派 | 加州江年禮相勤ム 本州東嶺寺［戒定］癡全□ |
| 從安政四巳八月 到同暦五午八月十五日迄 | 妙叟派 | 尾州天徳院［大峰］祖宗□▲ 同州日永瑞光寺振住 |
| 從安政五午八月 到同暦六己未八月十五日 | 實峯派 | 尾州彌勒寺 同州興禪寺振住［天庵］慶眞□□ |

---

（實峯派）

同 四万四千二百三十九世堅光和尚 神光寺 受業師 靈瑞和尚 嘉永二年四月六日 雲州之 嗣法師 同 住僧也

實峯派 四万六百二十三世泰宗和尚 長興寺 受業師 匡宗和尚 天保二辛卯年八月十四日 勢州（メイ） 嗣法師 匡宗和尚 住僧也

（該当なし）

再文公 實峯派 四万四千九百四十三世黄龍和尚 長持寺 受業師 默宗和尚 嘉永五年八月十日 日州之 嗣法師 文啓和尚 住僧也

再文公 實峯派 四万五千三百五十七世大然和尚 向陽寺 受業師 劫外和尚 嘉永六年八月八日 若州之 嗣法師 可悅和尚 住僧也

（該当なし）

無著派 四万三千二百六十三世桃源和尚 寶泉寺 受業師 惟喬和尚 弘化二年三月十四日 肥前之 嗣法師 探道和尚 住僧也

（該当なし）

（該当なし）

（該当なし）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 從安政六未八月望到万延元申八月退院 | 無着派 | 肥州玉林寺［桃心］宜仙□* | 實峰派 四万二百三十世亘仙和尚 受業師 智見和尚 肥前之 文政十三庚寅年閏三月十八日 龍源寺 嗣法師 慧照和尚 住僧也 |
| 從萬延元申八月到文久元酉八月 | 無着派 | 筑州明光寺元亮［巨道］□□ | 再實峰派 四万七千百四十二世元亮和尚 受業師 春道和尚 筑州之 萬延元年八月十二日 文公 明光寺 嗣法師 瑞光和尚 住僧也 |
| 從文久元酉八月到文久二戌八月 | 實峯派 | 三州千鳥寺［俊山］實英□□ | 實峰派 四万三千九百十三世俊山和尚 受業師 梅保和尚 三州之 弘化五年二月二十九日 寶積寺 嗣法師 白俊和尚 住僧也 |
| 從文久二戌八月到文久三亥八月 | 實峯派 | 賀州公江年禮相勤ム 伯州總泉寺［禪智］愍道□□ | 再實峰派 四万七千七百三十四世愍道和尚 受業師 須山和尚 伯州之 文久二年八月九日 文公 總泉寺 嗣法師 白天和尚 住僧也 |
| 從文久三亥八月到元治元子八月 | 無着派 | 加州公江年禮相勤ム 羽州安養寺［宜道］亮關 | （該当なし） |
| 從元治元子八月到慶應元丑八月 | 大徹派 | 甲州正覚寺補住 山内覺皇院龍苗* | （該当なし） |
| 從慶應元（マヽ）子八月到慶應二寅八月 | 實峯派 | 本州穴水瑞源寺［實翁］龍宗□□ | （該当なし） |
| 從慶應二丙寅八月到同暦三丁卯八月 | 實峰派 | 信州大町靈松寺［玉翁］達淳□* | （該当なし） |
| 昨寅八月十四日ヨリ廿日迄二代禅師五百回大遠忌營辨拙僧四老ニシテ十九日逮夜焼香 | | | |
| 從慶應三丁卯八月到同暦四戊辰八月 | 太源派 | 羽州秋田大森邑大慈寺代 同州湯澤清凉寺益祐□（♠） | （該当なし） |
| 從明治二己巳八月到同暦庚午八月 | 通幻派 | 直請狀 本州山田最安寺大安寛道□ | （該当なし） |

如意庵へ輪住したのは、元和元年（一六一五）八月十二日に入院した当国（能登）華溪寺呑虎和尚から、明治二年（一八六九）八月［十五日］の本州（能登）山田最安寺大安寛道（和尚）まで二百十名であるが、能登華溪寺呑虎（總持寺二九八二世、慶長十九年九月朔日入寺）が元和元・三・五年、寛永六年の四回、同じく能登瑞源寺通山全達（未出世）も元和二・四・六年、寛永五年の四回輪住していることは注目しなければならない。

また如意庵輪住者二百十名中總持寺に出世（転衣）したものは、現在判明している限り百十七名（五十六％）で、未出世のものが九十三名（四十四％）である。このように未出世のものが九十三名にものぼっていることは無視できない。また總持寺出世転衣者百十七名中四十名が再公文で、三十三％であることもとりわけ注目する必要がある。

また欠住については前号などでも触れたように、無端祖環（？～一三八七）の洞川庵や、大徹宗令（一三三三～一四〇八）の伝法庵とともに、門流が衰退したばかりか、輪番地寺院も太源宗真（？～一三七一）の普蔵院や、通幻寂霊（一三二二～九一）の妙高庵に比し少なかったので、勢い欠住が著しく、寛永八年（一六三一）から元文五年（一七四〇）にわたり四十五年[3]にのぼっている。とりわけ初期の寛永八年から貞享二年（一六八五）までに三十一年を数えることは看過できない。しかし寛保元年（一七四一）以降は、他門派の助住もあってか欠住はみられない。

いま總持寺に出世した百十七名の總持寺出世時と、如意庵輪住の日時の關係についてみると、次のようである。

（1）總持寺出世後如意庵輪住まで二ヶ月以上　六十四名

二十年以上　九名（最長二十九年五ヶ月、安政六年八月輪住した總持寺四〇二三〇世桃心宜仙）

十九年～十年　二十三名

九年～二ヶ月　三十二名

（2）出世直後如意庵輪住者　四十八名

翌日　一名（安永五年輪住伯州総泉寺大用慧照、總持寺一三四九二世）

二日　一名　三日　六名
四日　七名　五日　四名
六日　九名　七日　十一名
八日　三名　九日　四名
十日　一名　十一日　一名

（3）如意庵輪住中出世者　四名
輪住後四日　一名
六日　一名
退院前二十二日　一名
二十三日　一名

（4）不明者　一名
天明元年如意庵に輪住した本州瑞源寺単宗別伝は總持寺二七〇六九世であるが、出世年月日などの記録がない。

このように如意庵はじめ五院輪住中、少なくとも退院前に總持寺に出世しているが[4]、応永時代に五院輪住後總持寺へ出世した例があるので、總持寺出世と五院輪住の前後については、新たな問題として今後究明する必要がある。いま一例を紹介すると、それは応永十五年（一四〇八）十月二十五日「惣持寺前住侑藉等連署置文」の「延寿堂分田事[5]」に、如意［庵］良受（伝芳良受）は前住侑藉（總持寺十五世貝林有藉）や伝法［庵］元三（總持寺三十八世普門元三、応永二十七年二月二十一日入寺）とともに連署しているが、『總持寺住山記』に「卅三世伝芳受和尚嗣実峰秀和尚応永廿五年三月晦日入寺」とあり、如意庵輪住後十年経過して總持寺に出世している。また伝法庵普門元三も同じく伝法庵輪住後

十二年経過して總持寺に出世している。

次に如意庵輪住者二百十名の門派名について考察すると、以下の通りである。

まず実峰派およびその派下については

実峰（良秀）派　六十四回
中明（見方）派　二十二回
金竜（謙柔）派　十二回
妙叟（永浄）派　十回
明窓（妙光）派　八回
万山（喜一）派　八回
悦堂（常喜）派　八回
大沢（慈恩）派　四回
綱庵（性秀）派　四回
大等（一祐）派　四回
天庵（圭産）派　一回
貝林（有藉）派　一回

の百四十六回であるが、その他助住した門派は六十四回にのぼっている。それは

無著（妙融）派　三十六回
通幻（寂霊）派　七回

竺堂（了源）派　六回
太源（宗真）派　六回
明峰（素哲）派　三回
寒巖（義尹、法王）派　三回
大徹（宗令）派　二回
天真（自性）派　一回

となっているが、無著派が突出している。それは関三刹が万治二年（一六五九）三月八日、洞川庵宛の「覚」五条の第三条に

一　無著傑堂両派近代為瑞世就本寺不勤門役事心外之至也從今普蔵院如意庵輪番之住職被相勤様ニ申度旨尤也其趣急度可被申渡者也若於異議者三ヶ寺江可被申達歟其節以評議可被申候事(6)

とあるように、無著派・傑堂派に対し普蔵院・如意庵への輪番住職を強要したからであろう。(7)

なお正保四年、尾州定光寺宗鉄和尚の条、寛文六年、尾州興禅寺愚月和尚の条の上部に「本」とあり、また正保四年、尾州定光寺宗鉄和尚の下方に「後」、同じく慶安元年、尾州広済寺の下方に「前」とあるが、そのいずれも何を意味しているか明らかでない。

ここで如意庵輪住について、国別・寺院別・輪住回数・門派名その他をまとめ、便宜的に『曹洞宗大本山總持寺御直末・元輪番地寺院名鑑』に準じて列挙すると同時に、その問題点について考察する。

## 甲斐

山梨　正覚寺　1回

大徹派1

※1の元治元年は山内覚皇院代住。なお覚皇院は『御直末・元輪番地寺院名鑑』（以下『名鑑』と略称する）によると、伝法庵の輪番地寺院である。

## 尾張

愛知　龍潭寺　2回

萬山派1

實峰派2

※1の享保八年は『如意庵輪住帳』には押紙で「「説乗」慈宣和尚」とあり、「興禅寺ゟ拂請状落申□（故か）書加」の注記がある。

愛知　弥勒寺　1回

実峰派1

※1の安政五年は「同州興禅寺振住」とあり、興禅寺の振住である。

愛知　興禅寺　4回

萬山派123

実峰派4

※4の安政五年は弥勒寺へ振住している。

愛知　雲居寺　2回

萬山派12

愛知　天徳院　2回

妙叟派12

※1の享保六年に「瑞光寺振住」、2の安政四年に「同州日永瑞光寺振住」の注記があり、いずれも瑞光寺の振住である。

愛知　瑞光寺（旧名定光寺）9回

妙叟派123456 9

妙叟開闢7

実峰派8

※1の正保四年は旧名の定光寺で輪住し「今ハ瑞光寺ト申」の注記がある。なお尾州の横に「三マハリ」とある。2の寛文七年は同国竜雲院、3の元禄元年、8の文化十二年は三州林泉寺、4の享保六年は尾州天徳院、5の延享元年は尾州福田寺、6の安永四年は勢州源盛院、9の安政四年は尾州天徳院にいずれも振住している。

愛知　福田寺　1回
妙叟派1
※1の延享元年は「日永瑞光寺振住也」と注記があり、同州瑞光寺の振住である。
愛知　広済寺　3回
天庵派1
萬山派2 3
※1の慶安元年「同州広済寺儀養和尚」の右に「尾州興禅開山万山、二代天庵和尚也。天庵派者万山派之事也」の注記がある。
愛知　龍雲院　2回
妙叟派1 2
※2の寛文七年に押紙「瑞光寺振住」とあり、尾州瑞光寺の振住である。

## 三　河

愛知　林泉寺　2回
妙叟派1
実峰派2
※1の元禄元年に押紙「瑞光寺振住」とあり、瑞光寺の振住である。2の文化十二年は、「尾州日永瑞光寺振住」の注記があり、いずれも瑞光寺の振住である。
愛知　嶺雲寺　1回
金龍派1
愛知　広済寺　4回
金龍派1 2 3
実峰派4
※4の文化十四年に「開基奇傳」の注記がある。
愛知　千鳥寺　4回
金龍派1 2 3
実峰派4
※1の宝暦六年は三州円通院が代住している。
愛知　最光院　1回
金龍派1
※1の安永五年は香積寺の代住であり、また「直請状」の注記がある。
愛知　香積寺　4回

金龍派１２３４
※４の安永五年は三州最光院が代住している。
愛知　長興寺　２回
妙叟派１
実峰派２
※２の天保五年は［萬山］天年と［退謙］来道が角書で掲げられ、二名が輪住している。『名鑑』の備考に来道は天年の代勤かとしているが、多分間違いないと思われる。なお「直請状」の注記がある。
愛知　円通院　１回
金龍派１
※１の宝暦六年に「千鳥寺代住」の注記あり。千鳥寺の代住をしている。
愛知　広円寺　１回
金龍派１

## 信　濃

長野　明松寺　１回
通幻派１
長野　龍洞院　１回
太源派１
長野　正安寺　１回
通幻派１
※１の宝暦三年には通幻派の右下に「補住也」の注記がある。
長野　霊松寺　７回
実峰開山１
実峰開闢２５
実峰派３４６７
※１の寛保三年の派名は実峰開山、２の明和二年、５の文政十年の派名は実峰開闢、他は実峰派とある。また１の寛保三年に「実峯禅師開闢道場之処、九代ヨリ天真ノ遠末ニ属シ、林村廣沢寺ニ属ス處、霊松隠居鐵州和尚永壽鉄道ト謀而歸末ス。是　秀祖ノ本分吾山ノ榮輝也。此年始而歸末申渡輪住始テ勤ム。二十年一回ニ定置者也」の注記がある。６の弘化三年に「［義山］実雄依迁寂補住［恵巖］覚雄」とある。７の慶応二年に「昨寅八月十四日ヨリ廿日

迄二代禅師五百回大遠忌営辨、拙僧四老ニシテ十九日逮夜焼香」の注記がある。なお『名鑑』には、1の前に正長元年真化玄淳（總持六十四世）、長禄二年大養淳亨（總持一九七世）、明応二年龍門韶薫（總持三五二世）の輪住記録があるが、これは年代的に『如意庵輪住帳』にない部分に相当する。

## 伊　勢

三重　建福寺　6回

竹堂派146

竹堂開山23

竺堂派5

※1の派名竹堂派の左に「峩山廿五哲之一也」の注記がある。2の享保十五年と、3の宝暦十二年の派名は竹堂開山とあり、5の嘉永三年の派名は竺堂派で、他は竹堂派。

三重　源盛院　1回

妙叟派1

※1の安永四年は「尾州日永瑞光寺振住也」の注記があり、尾州瑞光寺の振住である。

三重　養泉寺　1回

通幻派1

※1の明和五年は派名通幻派の右肩に「補住也」とある。

## 摂　津

大阪　天徳寺　1回

太源派1

※1の宝暦十一年は派名太源派の右側に「補住也」とある。

## 備　中

岡山　永祥寺　11回

大沢派　1234

（空白）5

実峰開闢67

実峰派8911

天真派10

※5の享保十一年は門派名がない。また享保十一年は備中平等寺の右側に「永祥寺代」の注記があり平

等寺が代住している。6の延享四年と、7の明和六年の派名は実峰開闢とある。10の文政十一年は越中常泉寺の左肩に「備中永祥寺代住」とあり、常泉寺道琳（代勤津梁）が代住している。なお常泉寺は妙高庵の輪番地寺院である。

岡山　平等寺　1回

（空白）1

※1の享保十一年は派名なきも『名鑑』は実峰派とある。また備中平等寺の右側に「永祥寺代」とあるが、これは備中永祥寺の代住を示すものである。

## 美作

岡山　瑞景寺　3回

実峰派123

※1の寛延二年に「備中定光寺へ嘱居候へ共、従来実峰禅師開山之地、延享三寅年本末一統御改之節、拙院江府ニ罷成直末ニ改、今年初輪住スル者也」とあり、延享三年（一七四六）本末一統が改められた時、直末寺院になっていることがわかる。3の天保十五年に「直請状」の注記がある。

## 安藝

広島　聖光寺　6回

悦堂派1234

実峰派56

## 伯耆

鳥取　総泉寺　11回

綱庵派1234

実峰開山5

実峰派6789 10 11

※3の安永三年には「直請状」の注記がある。5の宝暦七年の派名は「実峰開山」とある。10の天保十二年は伯州梅翁寺が代住している。11の文久二年に「賀州公ニ年禮相勤ム」の注記がある。

鳥取　梅翁寺　1回

実峰派1

※1の天保十二年は梅翁寺の右側に「伯州総泉寺代」とあり、伯州総泉寺の代住である。

## 出雲

鳥取　神光寺　7回

悦堂派1 2 3

悦堂開闢4

実峰派5 6 7

## 筑前

福岡　明光寺　7回

無著派1 2 3 4 5 7

通幻派6

※6の天保二年は、妙高庵の輪番地寺院である能登蓮江寺が代住している。

## 豊後

大分　泉福寺　2回

無著派1 2

## 肥前

佐賀　医王寺　3回

無著開山1

無著派2 3

※1の宝暦十年の派名は無著開山とある。2の天保六年には「直請状」の注記がある。

佐賀　玉林寺　10回

無著派1 2 3 4 7 8 9 10

無著開山5

無著開闢6

※5の宝暦二年の派名は無著開山、6の安永元年の派名は無著開闢とある。3の正徳二年、4の享保十六年は大龍渭川が二回輪住している。また6の明和九年、7の寛政十年に「直請状」の注記がある。

## 日向

宮崎　長持寺　11回

明窓派1 2 3 4 5 6

実峰派7 8 9 10 11

※1の寛永三年と、2の正保三年は祖達和尚が二回輪住している。11の嘉永五年黄隆は、『總持寺住山記』では黄龍となっている。

宮崎　長善寺　1回
明窓派1
宮崎　幻生寺　1回
明窓派1

## 若狭

福井　竜沢寺　4回
大等派1234
※1の明暦元年は『名鑑』によると明暦二年とある。4の享保四年『如意庵輪住誌』には「若州龍沢寺黠外愚中」の右に「今ハ向陽寺勤之」とあり、向陽寺が代住している。
福井　向陽寺　7回
実峰派1234567
※1の享保四年は若州竜沢寺の代住である。2の寛延元年に「是迄竜沢寺ニ勤来候得共、向陽寺依願竜沢寺之勤仕差除、向陽ニ相成初而勤者也」の注記がある。3の明和八年に「直請状」の注記がある。

## 加賀

石川　崇禅寺　1回
明峰派1
石川　雲龍寺　1回
通幻派1
※『名鑑』によると、雲龍寺は妙高庵輪番地としても記載されていない。
石川　広誓寺　1回
通幻派1
※広誓寺は妙高庵の輪番地寺院である。

## 能登

石川　竜護寺　6回
貝林派1
（空欄）2
実峰派3456
※『名鑑』には1の元禄八年の前に總持寺十五世貝

林侑藉から總持寺一一五七世龍室頼泉（性哲）まで十七名が列挙されている。

石川　東嶺寺　8回

中明派1237

実峰派4568

※4の明和七年に「直請状」の注記があり、5の寛政四年は「物外代揚宜」とあって、物外の代りに揚宜が輪住している。また8の安政三年癡全の項に「加州江年禮相勤ム」とある。

石川　悦叟寺　2回

中明派1

実峰派2

石川　瑞源寺　15回

中明派1234567890

実峰派11 12 13 14 15

※1の元和二年、2の元和四年、3の元和六年、4の寛永五年は全達和尚が四回輪住しているが、この時期能登華渓寺呑虎和尚と交代で勤めている。

石川　最安寺　1回

通幻派1

※1の明治二年に「直請状」の注記がある。

石川　千光寺　6回

中明派1

（空白）2

実峰派3456

※2の享保十三年は門派名がないが、『名鑑』は中明派とある。6の天保十三年に「直請状」の注記がある。また『名鑑』にある明治元年応順諦道の輪住は『如意庵輪住誌』にはない。『如意庵輪住誌』における明治元年の輪住は欠落している。

石川　華渓寺　4回

中明派1234

※1の元和元年、2の元和三年、3の元和五年、4の寛永六年は呑虎和尚が四回輪住しているが、この時期瑞源寺全達と交代で勤仕していることがわかる。

石川　宝泉寺　1回

中明派1

石川　覚皇院　2回

大徹派１２

※２の元治元年山内覚皇院龍苗の右側に「甲州正覚寺補住」の注記があり、正覚寺の代住をしている。なお覚皇院は伝法庵の輪番地寺院である。

石川　蓮江寺　１回

通幻派１

※１の天保二年は輪嶋蓮江寺の右側に「筑前明光寺代住」の注記があり、明光寺の代住をしている。なお蓮江寺は妙高庵の輪番地寺院である。

## 越中

富山　光禅寺　１回

明峰開闢１

富山　常泉寺　１回

天真派１

※１の文政十一年に「備中永祥寺代住」の注記があり、また道琳に代り津梁が勤仕している。なお常泉寺は妙高庵の輪番地寺院である。

富山　海岸寺　１回

明峰派１

※１の安永二年に「補住也」の注記がある。

## 越後

新潟　長興寺　３回

法王派１

寒巖派２３

※１の明和元年に「補住也」「但此寺向後三十年目ニ一回ツヽ被相勤候ニ定也」の注記がある。

新潟　大蓮寺　１回

太源派１

※１の文化七年は『名鑑』によると文化元年となっている。文化元年は『如意庵輪住誌』によると実峰派の伯州總泉寺［大中］素極が輪住している。検討を要す。

## 陸奥

福島　竜門寺１回

太源派１

※１の天保元年は「補住」の注記がある。なお竜門寺は普蔵院の輪番地寺院である。

## 出羽

山形　清源寺　2回
太源派１２

※1の天保十四年は「羽州安養寺代」の注記があり、羽州安養寺の代住をしている。2の慶応三年は「羽州秋田大森邑大慈寺代」の注記があり、羽州大慈寺の代住をしている。なお清源寺は如意庵の輪番地寺院であるが、『名鑑』の備考に「山形瑞雲院末、太源派」とある。

山形　安養寺　7回
（空白）1
無著派　２５７
無著開闢３４
太源派６

※1の享保十二年は派名がない。しかし『名鑑』は無着派である。また享保十二年は『名鑑』では享保十一年となっている。なお『總持寺住山記』によると、月珊は宝永七年八月廿三日、安養寺末の広谷寺から出世しているが、派名は実峰派とある。3の安永八年、4の寛政十二年は無著開闢とある。6の天保十四年は太源派出羽清源寺が代住している。7の文久三年宣道亮関の時「加州公江年禮相勤ム」の注記がある。

秋田　大慈寺　8回
無著派１２３４５６７８
秋田　曹溪寺　1回
無著派1

如意庵に輪住した寺院は『總持寺史』五院輪番地に掲げられている寺院五十一ヶ寺[8]のすべてと、普蔵院輪番地陸奥竜門寺、妙高庵輪番地加賀広誓寺・越中常泉寺・能登蓮江寺、伝法庵輪番地山内覚皇院、および輪番地以外の寺院である甲斐正覚寺、尾張竜雲院・広済寺、三河広円寺、日向長善寺・幻生寺、加賀雲竜寺、能登華溪寺・宝泉寺、越中

海岸寺など十五ヶ寺で、都合六十六ヶ寺である。

これを地域別にみると、北陸地方二十ヶ寺（能登十ヶ寺、加賀・越中各三ヶ寺、若狭二ヶ寺、越後一ヶ寺、佐渡一ヶ寺）と東海地方十八ヶ寺（尾張九ヶ寺、三河九ヶ寺）が圧倒的に多く、全体の五十七・五％を占めている。次が中国地方七ヶ寺（備中二ヶ寺、伯耆二ヶ寺、美作・安芸・出雲各一ヶ寺）と九州地方七ヶ寺（日向三ヶ寺、肥前二ヶ寺、筑前・豊後各一ヶ寺）で、後は甲信地方五ヶ寺（信濃四ヶ寺、甲斐一ヶ寺）、東北地方五ヶ寺（出羽四ヶ寺、陸奥一ヶ寺）、近畿地方四ヶ寺（伊勢三ヶ寺、摂津一ヶ寺）となっている。

また六十六ヶ寺を個別的にみると、輪住一回の寺院は二十九ヶ寺の四十三・九％で、その殆んどが代住や補住によるものである。もっとも多く輪住（代住も含む）しているのは能登瑞源寺の十五回で、代住によるものは一回もないが、瑞源九世の通山全達が元和二年（一六一六）・四・六年、寛永五年（一六二八）の四回輪住していることは注目しなければならない。

次に多いのは備中永祥寺・伯耆総泉寺および日向長持寺の十一回である。永祥寺は享保十一年（一七二六）備中平等寺、文政十一年（一八二八）同じく備中常泉寺が代住しているが、常泉寺の場合は輪住者道琳に何等かの事情があったらしく、津梁が代勤している。また総泉寺は天保十二年（一八四一）伯耆梅翁寺が代住しており、長持寺は祖達が寛永三年（一六二六）・正保三年（一六四六）に二回輪住している。

また十回は肥前玉林寺（無著開山）のみであるが、正徳二年（一七一二）と享保十六年（一七三一）に大龍渭川が二回輪住している。

次に九回は尾張瑞光寺のみであるが、正保四年（一六四七）に旧名の「尾州定光寺」で輪住し、「今ハ瑞光寺ト申」とあるのみならず、尾州の右傍に「三マハリ」とある。また寛文七年（一六六七）は尾州竜雲院、元禄元年（一六八八）と文化十二年（一八一五）は三州林泉寺、享保六年（一七二一）・安政四年（一八五七）は尾州天徳院、延享元年（一七四四）

は尾州福田寺、安永四年（一七七五）は勢州源盛院などの末寺に代住させているから、九回のうち七回は代住によるものであった。

次に八回は能登東嶺寺、出羽大慈寺の二ヶ寺であるが、東嶺寺は寛政四年（一七九二）に「物外代揚宜」とあり、東嶺二十世物外実道に代り揚宜が輪住している。また出羽大慈寺は代住させず、すべて自ら輪住している。

次に七回であるが、信濃霊松寺、出雲神光寺、筑前明光寺、越前向陽寺、出羽安養寺の五ヶ寺である。まず霊松寺は寛保三年（一七四三）に、霊松寺は実峰開闢の道場であったが、九代から天真派広沢寺の末寺となる。しかし霊松隠居鉄州と永寿鉄道が協議して実峰派に帰末し、二十年に一回輪住することに定めたとある。また弘化三年（一八四六）に義山実雄が遷化したので、恵巖覚雄が補住したとある。なお『曹洞宗大本山總持寺御直末・元輪番地寺院名鑑』には正長元年（一四二八）真化玄淳（總持六十四世）、長禄二年（一四五八）太養淳亨（總持一九七世）、明応二年（一四九三）竜門韶薫（總持三五二世）の輪住記録がある。

次の神光寺はすべて自ら輪住しているが、明光寺は天保二年（一八三一）、通幻派の能登蓮江寺が代住している。また向陽寺は享保四年（一七一九）若狭竜沢寺の代住として輪住しているが、寛延元年（一七四八）依願により竜沢寺勤仕を停止し、初めて向陽寺独自で相勤むる旨の注記がある。最後の安養寺は天保十四年（一八四三）太源派の出羽清源寺が代住している。

また六回は伊勢建福寺、安藝聖光寺、能登竜護寺・千光寺の四ヶ寺であるが、いずれも代住はなく、すべて自ら輪住している。

次に五回はなく、四回は尾張興禅寺、三河広済寺・千鳥寺・香積寺、若狭竜沢寺、能登華溪寺の六ヶ寺であるが、興禅寺は安政四年（一八五七）尾張弥勒寺、千鳥寺は宝暦六年（一七五六）三河円通院、香積寺は安永四年（一七七五）三河最光院、竜沢寺は享保四年（一七一九）若狭向陽寺がそれぞれ代住している。また広済寺および華溪寺は代住さ

せていないが、華溪寺については元和元年（一六一五）・三・五年、寛永六年（一六二九）の四回にわたり呑虎が輪住している。

その他三回は尾張広済寺、備中瑞景寺、肥前医王寺、越後長興寺の四ヶ寺があり、二回は尾張竜潭寺・雲居寺・天徳院・竜雲院、三河林泉寺・長興寺、豊後泉福寺、能登悦叟寺・覚皇院、出羽清源寺の十ヶ寺がある。

なお『如意庵輪住帳』および『如意庵輪住誌』中に重要な注記があるので掲げておきたい。

（1）尾張広済寺、慶安元年（一六四八）儀養に「尾州興禅寺開山万山二代天庵和尚也、天庵派者万山派之事也」とある。

（2）信濃雲松寺慶応二年（一八六六）玉翁達淳に「昨寅八月十四日ヨリ廿日迄二代禅師五百回大遠忌営辨拙僧四老ニシテ十九日逮衣焼香」とある。

（3）伊勢建福寺元禄六年（一六九三）天海の派名竹堂派の左傍に「峩山廿五哲之一也」とある。

（4）美作瑞景寺寛延二年（一七四九）玄堂通門に「備中定光寺へ嘱居候へ共、従来実峰禅師開山之地延享三寅年本末一統御改之節拙院江府ニ罷成直末ニ改今年初輪住スル物也」とある。（・印は私に付した）

（5）伯耆総泉寺文久二年（一八六二）禅智愍道に「賀州公江年禮相勤ム」とある。

（6）能登東嶺寺安政三年（一八五六）大峰祖宗に「賀州（公脱か）江年禮相勤ム」とある。

（7）越後長興寺明和元年（一七六四）忍亮に「但此寺三十年目ニ一回ツヽ被相勤候ニ定也」とある。

（8）出羽安養寺文久三年（一八六三）宜道亮関に「加州公江年禮相勤ム」とある。

最後に第十四号からはじめた五院住山記の翻刻と、それに対応する總持寺住山記の関係を掲げるとともに、五院の成立過程、住持期間の変容、さらには五院による總持寺の護持と管理運営をはじめとする諸問題を追究することができたが、さらに網羅的に精査検討を加えていきたい。

【注記】

（1）栗山泰音『總持寺史』一七〇頁参照。実峰十二哲は貝林有藉、悦堂常喜、明窓妙光、金竜謙柔、大等一祐、綱庵性秀、中明見芳、妙叟永浄、傳芳良受、大沢慈恩、大用和尚、万山喜一。

（2）前に紹介した『善蔵院輪住誌』『妙高庵輪住誌』『洞川庵輪住誌』『伝法庵輪住誌』があり、五院すべてに輪住誌があるから、あるいは一括するものかも知れないが、罫の有無、表記法の相違があるので、今後の究明に俟ちたい。

（3）寛永八年～十年（三年）、寛永十二年（一年）、寛永十四年～正保元年（八年）、慶安四年～明暦元年（五年）、明暦三年（一年）、万治三年～寛文二年（三年）、寛文九・十年（二年）、寛文十三年～延宝三年（三年）、延宝五年（一年）、延宝八年～天和元年（二年）、貞享元・二年（二年）、元禄二・十二・十五・十六年（四年）、宝永元・二・四・五・七年（五年）、享保八・十四・十九年（三年）、元文四・五年（二年）

（4）『總持寺史』五三七頁に、従来は一旦住持職を経て出世した人の中から五院輪番の再住を撰んだとある。

（5）『新修門前町史』資料編1總持寺一九六頁参照。

（6）『總持寺史』五五七頁参照。

（7）無著派の如意庵輪住の初見は寛文三年（一六六三）肥前玉林寺開的で、それ以降三十六回にわたり輪住しているが、これは関三刹の「覚」によったものと思われる。しかし總持寺への輪住は二五一一世宗珉、慶長八年（一六〇三）七月二十一日（地名・寺名は記録なし）が初見であるが、「実峰取次」によるものは四一〇二世鷲暾和尚、寛永十年（一六三三）九月二十六日肥前玉林寺や、五二九八世光朔和尚、慶安三年（一六五〇）五月十五日羽州万松寺があるから、以前から実峰派と何等かの関係があったものと思われる。なお傑堂派は【追記】（1）のように、普蔵院への輪住は七十二回を数えるが、如意庵には一回も輪住していない。

（8）『總持寺史』五四六頁参照。

【追記】

（1）本誌第十四号「總持寺五院の成立と展開」三一四頁において傑堂派は普蔵院に一回も輪住せず、関三刹の「覚」に違背しているとしたが、これは誤りで、慈光寺・耕雲寺をはじめとする越後地方や、天寧寺・松林寺・松音寺・輪王寺など陸奥（福島・宮城）地方で、少なくとも七十二回輪住している。

（2）『如意庵輪住帳』『如意庵輪住誌』および『總持寺住山記』と『曹洞宗大本山總持寺御直末・元輪番地寺院名鑑』と法名などの相違があるので掲げておきたい。（下段が『曹洞宗大本山總持寺御直末・元輪番地寺院名鑑』）

| | |
|---|---|
| 寛永十一年当国瑞源寺・廬・龍 | 蘆・龍 |
| 寛文三年肥前国玉林寺・閒・的 | 閑・的 |
| 寛文五年当国東嶺寺・鸞・意 | 鷲・意 |
| 天和二年当国瑞源寺・庵・石 | 安（庵）石 |
| 元禄元年三州林泉寺・鷲・峰 | 鶩峰 |
| 元禄四年尾州廣済寺・鍾・峰 | 鏡・峰 |
| 寶永六年能州瑞源寺・匡・山・良・堂 | 宗・海・良・堂 |
| 正徳三年筑前明光寺・性・山・鐵・相 | 万（匡山）空・鉄（性山）相 |
| 享保四年若州竜沢寺・黠・外 | 黙・外 |
| 文化九年若州向陽寺・宜・範 | 宜・範 |
| 寛保二年能登悦叟寺・福・州 | 福・樹 |
| 寛政五年勢州建福寺・擔・道 | 瞻・道 |
| 文政九年羽州大慈寺・功・運 | 功・雲 |
| 嘉永元年備中永祥寺・汝・楫 | 汝・揖 |